近代日本
児童保護事業の原点！

岡山孤児院
関係資料集成

編集復刻版 全3巻

十九世紀の終わり——
地震・津波などの自然災害だけでなく、
飢饉・戦争によって保護者や家を失って
命の危機にあった日本中の子どもたち全てを
受け入れようとした岡山孤児院。
宮崎県茶臼原や大阪でも展開した
石井十次と彼の世界中の支援者たちの
先駆的な児童保護事業を検証する、
基本資料を編集復刻！

A4判／上製／総一、二〇〇ページ
揃定価◉本体七万五、〇〇〇円＋税
編・解説◉細井勇・菊池義昭

不二出版

女子部塾舎の風景

刊行の辞

本書は、「児童福祉の父」と呼ばれる石井十次と岡山孤児院（一八八七～一九二六）に関する資料を集大成した編集復刻版である。前身の孤児教育会の「趣旨・概則」に始まる第一次資料から当時の新聞切り抜き帖まで、岡山孤児院に集まり、生き抜いた子どもたちと子どもたちを直接間接に支えた人々の様相を明らかにする。

一八八七年、岡山で医学を学んでいた石井十次は、一人の貧しい女性から子どもを預かったことをきっかけに孤児教育会（のち岡山孤児院に改称）をつくり、子どもの暮らしを保証し教育もおこなう児童保護事業を自分の道と決意した。

石井は、飢饉・自然災害・戦争などにより保護者を失って困窮する全国の児童をすべて受け入れる方針で、日本全国のキリスト者や社会事業家・実業家・政治家の協力を獲得、さらに海外にも協力者を求めて大規模な児童福祉事業を展開した。

鉄道の駅には岡山孤児院向けの募金箱がおかれ、保護を必要とする子どもたちは「岡山孤児院行き」と書かれた白布を衣服に縫いつけてもらい、鉄道で岡山まで運ばれた。東京には東京事務所、大阪には愛染橋保育所と夜学校、職業紹介所を設立、一九一二年までには成長する子どもたちの自立の場を確保するため、故郷宮崎県茶臼原に移転（茶臼原孤児院）、同時に地域の振興を目指した。

石井の没後も事業は継続したが、一九二六年、岡山孤児院／茶臼原孤児院は活動を停止する。しかし、第二次世界大戦後、「戦災孤児」のための施設として再開、現在、石井の岡山孤児院の事業は、宮崎の石井記念友愛社と大阪の石井記念愛染園に引き継がれている。

子どもの社会的養護の原点といえる岡山孤児院の事業を改めて検証するためのもっとも基礎的な資料を石井記念友愛社で大切に守られた膨大な資料の中から厳選し、集成として刊行するものである。

関連年表

年	石井十次・岡山孤児院　関連事項
一八六五	石井十次、宮崎県児湯郡に生まれる
一八六九	棄児・孤児・貧窮児のための日田養育館設立（現在の大分県）
一八七二	東京市養育院の創立
一八七九	福田会育児院設立（東京）
一八八一	石井十次、内野品子と結婚
一八八二	石井十次、岡山県甲種医学校に入学
一八八四	岡山基督教会で洗礼を受ける
一八八六	岡山県甲種医学校を卒業
一八八七	貧窮する母親から男児を預かったことをきっかけに、岡山市の三友寺に孤児教育会を設置
一八八八	〈樵夢軒の下学校〉と称し、岡山区京橋下の浮浪児二〇余名に孤児院の軒下で授業を行う
一八八九	第三高等中学校医学部を退学
一八九一	濃尾地震。名古屋市に震災孤児院を開設
一八九三	震災孤児院児を岡山孤児院本院に合併
一八九四	石井の郷里・宮崎県茶臼原へ移住するため、現地の開拓を開始
一八九五	東京市「幼童縁組並雇預及養育料保管手続」里親制度のさきがけ 妻・品子死去。同年、辰子と結婚
一八九六	『岡山孤児院新報』第1号発刊
一八九七	「幼児は遊ばせ、子どもは学ばせ、青年は働かせる」ことを理念とする〈時代教育法〉を案出 私立岡山孤児院尋常高等小学校設立
一八九八	孤児による音楽幻燈隊を編成、尾道で初公演 賛助員募集をはじめる
一八九九	全国主要停車場に募金函設置 幼稚園を設立
一九〇〇	感化法。行旅病人及行旅死亡人取扱法。精神病者監護法 高鍋および茶臼原の事業を中止 賛助会員一万人突破
一九〇二	大阪出張所を設置（～一九〇六年）
一九〇四	日露戦争。戦争孤児六三名を受け入れる
一九〇五	〈孤児無制限収容〉を発表 女子部に家族制度を試行 委託制度（里預制）を試行 東北地方冷害による大凶作

年	石井十次・岡山孤児院　関連事項
一九〇六	東北地方冷害被害児童のため、仙台、福島、岩沼に救済事務所を設立。その後、六回に分け計八二五名を岡山に受け入れる
	岡山孤児院の収容者数が二二〇〇人を超える 茶臼原移住隊五〇名出発 全面的に委託制度（里預制）を導入 茶臼原に〈農業小学校〉設立
一九〇七	東京事務所と大阪事務所を開設
一九〇八	「家族制度」「満腹主義」「宗教教育」などの方針を記した〈岡山孤児院十二則〉を発表 「親は働き、子は学べ、三代目には小作人が地主となる」という考えに基づく〈三代教育論〉を発表 小野田鉄弥をハワイ、米国に派遣
一九〇九	大阪事務所で「貧児保育」「貧児の夜学校」「職業紹介」を企図し、愛染橋保育所、愛染橋夜学校、日本橋同情館を設立
一九一〇	日本橋同情館を閉館
一九一二	院児、職員の茶臼原移住を完了（岡山には里子九一名を残すのみ）
一九一三	私立茶臼原尋常小学校を設立 〈茶臼原雪法〉制定
一九一四	石井十次死去
一九一七	岡山孤児院創立三〇周年、石井十次永眠三年を記念し、大原孫三郎が大阪に財団法人石井記念愛染園を設立。愛染橋保育所・夜学校を引き継いだほか、救済事業研究室を付設（後の大原社会問題研究所）
一九二二	少年法
一九二六	岡山孤児院、茶臼原孤児院が活動を終了
一九二九	貧困状況の高齢者・子ども・妊産婦・障害者のための救護法
一九三三	児童虐待防止法／少年救護法
一九三七	盧溝橋事件 財団法人石井記念愛染園が愛染橋病院を設立。低費診療開始
一九四五	敗戦 戦争被災児救済を目的として石井記念友愛社を茶臼原に設立、活動を再開。 その後、社会福祉法人石井記念友愛社となり、児童養護施設、保育園などを運営
一九四七	児童福祉法。孤児院を養護施設に改称

推薦します

石井十次――心の故郷

阿部志郎

社会福祉を志した若い日、私の胸奥に二つの人物像が宿されていた。石井十次とアーノルド・トインビー。

それは、戦前戦後のソーシャルワーカーに共通であって、私が例外であったわけではない。心の故郷というべきイメージを、石井は私に植えつけてきた。

親に棄てられ、飢えている子を探しだし、無条件に受け入れた石井の愛、大胆ではば広い行動、それを支えた祈りの生活に、深く心を打たれる。

条件・方法――建物、人材、財政が制度によって整えられて、はじめてニード対応する現代の私たちにとって「精神があれば方法は自然にある」という石井の強烈なボランタリズムは衝撃的で、これこそ福祉実践の原点であるまいかという思いを抱き続けている。

石井の名前は伝説的に継承されてきたからか、憧れの人物なのに、石井とは誰か、なにを考え、具体的にどのような事業を展開したのか、を知らない不見識に、今さらながら気付く。

同時に、一〇〇年以上経てなお石井を高く評価し、資料整理・調査に地道な努力を重ねている石井十次研究会がおこなう研究の近代的意味に注目せざるをえない。

その成果として、『岡山孤児院関係資料集成』が出版され、私の不勉強に対して石井十次の実像を学ぶ絶好の機会が与えられたことに、感謝したいと思う。

（あべ・しろう　横須賀基督教社会館会長・神奈川県立保健福祉大学名誉学長）

日本に福祉を拡げようとする苦闘

池田敬正

「近代的同情本位の理性の要求をも充たす（中略）、何処となく人をして自由なる而してまた新しき気分を味はしむる」と、小河滋次郎は、石井十次の孤児院経営を紹介した（一九一五）。この評価には、石井の仕事がもつ雰囲気がよく示されている。

その最初の趣意書やその後の運営を通じてみられる石井の考え方には、キリスト教による慈善事業として、個人の内面の良心にもとづかせる自律的な人間観に依拠する人格主義が漲っていた。その事業運営を人格的平等にもとづかせる。だがその主張を実現するため、社会のきびしい現実と直面せざるを得なかった。社会的支援を得るための活動や社会状況がもとめる現実を無視した無制限収容などに取組まざるを得ない。そのため、里親制度を採るとともに音楽隊も組織し、さらに「労働自活」や「事業自活」を実践しようと努力する。こうした工夫のなかで、「社会の中心に切込まざる可らず」（一九〇九）と訴えるようになっていく。

ところがこの変化に石井の思想的転換を見る見解があるが、石井自身の「個人主義より協同主義」への進展に二〇世紀の「要求」を見出す立場からすれば（一九一二）、その変化は、人格的平等にもとづく慈善を、個人的にではなく社会的に実現しようとする方向への転回であって、思想的基礎は一貫していたとみるべきである。ここに小河が評価する原因があり、多くのひとが、石井に魅力を見出す理由があろう。

この石井の膨大な関係資料の悉皆調査の上、厳選された『資料集成』が上梓された。石井の日本社会福祉成立における位置を、あらためて考えていただきたい。

（いけだ・よしまさ　京都府立大学名誉教授）

ある家庭舎の子どもたち

第1巻 目次

資料番号―資料名●編著者名〔発行所〕●発行年月

一―明治二十年八月孤児教育会趣旨並概則●一八八七・八

二―明治二十年八月日本孤児教育会概則●一八八七・八

三―明治二十年八月孤児教育会趣旨並概則●一八八七・八

四―明治二十年八月孤児教育会概則●一八八七・八

初期の子どもたち（1889年頃）。右の文字は「岡山祈禱場」と読める〔岡山孤児院茶臼原孤児院〕

五―明治二十年九月孤児教育会趣旨並概則●一八八七・九～一八八八・八

六―明治二十年度孤児教育会年報●一八八七・九～一八八八・八

七―〔名古屋震災孤児院報告〕●一八九一・一二～一八九三・九

八―OKAYAMA HOME FOR DISCHARGED PRISONERS, ITS ORIGIN AND INMATES●一八九四・三

九―岡山孤児院●編＝石田祐安／岡山孤児院出版●一八九五・三

一〇―岡山孤児院文学第三号●岡山孤児院文学会●一八九五・九

一一―岡山孤児院●石井十次●一八九八・九

一二―岡山孤児院●編＝小野田鉄弥●一九〇一・五

一三―明治三十六年五月十日調岡山孤児院調査項目●一九〇三・五

一四―第壱回評議会呈出書類●一九〇三・六

一五―岡山孤児院財団設立ニ際シ取調条項●岡山孤児院●一九〇三・一

一六―岡山孤児院●編＝森上信●一九〇四・二

一七―THE OKAYAMA ORPHANAGE―WHAT IT IS AND WHAT IT DOES●一九〇五・四

一八―〔東北凶作孤貧児収容に関する〕会談要領●〔一九〇六〕

一九―東北凶作地巡回記●宮井岩太郎●一九〇六・五

二〇―岡山孤児院●〔一九〇六〕

二一―賛助員府県別現在表〔外国及ヒ軍艦ヲ含〕明治四十年一月二十六日現在●一九〇七・一

二二―明治四拾年三月二十二日岡山孤児院第五回評議員会議事録●一九〇七・三

二三―〔石井十次韓国進出意見〕●〔一九〇八・一〇〕

二四―友愛社々則並愛染橋保育所規定（案）●一九〇九・六

二五―友愛社々則●一九〇九・六

二六―東洋救世軍●一九〇九・六

二七―明治四十二年六月東洋救民会●一九〇九・六

二八―岡山孤児院●小野謙次郎●一九〇九・六

二九―友愛社々則附愛染橋保育所・日本橋同情館規定●一九〇九・七

三〇―明治四十三年三月茶臼原孤児院現況●一九一〇・三

三一―自明治四十二年七月至明治四十三年十二月岡山孤児院附属事業大阪愛染橋保育所同夜学校報告●一九〇九・七～一九一〇・一二

三二―〔里預児〕契約書●一九一一

三三―岡山孤児院寄附行為／財団設立許可書／寄附行為変更認可書●一九〇一・一～一九一二・一

三四―DEEDS AND NEEDS of OKAYAMA ORPHANAGE 1912●編＝J.H.PETTEE●一九一一

三五―現在の岡山孤児院●富田象吉●一九一二・一二

三六―自明治三十八年四月十日至大正二年三月三十一日岡山孤児院一覧表●一九〇五・四～一九一三・三

三七―大正弐年八月調査報告●財団法人岡山孤児院分院茶臼原孤児院●一九一三・八

第2巻 目次

資料番号―資料名●編著者名〔発行所〕●発行年月

三八―岡山孤児院同窓会々報大正四年一月号●編＝柿原政一郎●一九一五・二

三九―岡山孤児院の過去及現在●編＝柿原政一郎／編述＝小野田鉄弥●一九一五・一〇

四〇―明治三十六年以降評議員会議事録・決議録●岡山孤児院●一九〇三・六～一九一六・四

四一―岡山孤児院同窓会々報大正五年八月号●編＝柿原政一郎／山室重平・益富政助・小野田鉄弥●一九一六・九

四二―現在の茶臼原孤児院●〔一九一六〕

四三―岡山孤児院創立満三十年紀念会記録附上阿知記念碑除幕式記事●一九一七・四

四四―岡山孤児院同窓会々報大正六年八月号●編＝西内藤男／大原孫三郎・山路弥吉●一九一七・八

四五―大正六年十二月末調茶臼原孤児院事業調査表●一九一七・一二

四六―大正六年十二月末日現在諸調表●〔茶臼原孤児院〕●一九一七・一二

四七―〔絵はがき〕

四八―家政塾ニ関スル調書●一九一八

四九―岡山孤児院同窓会々報大正七年一月号●編＝柿原政一郎／富田・西内●一九一八・一

五〇―岡山友愛社設立趣意書〔ほか大正六・七年岡山孤児院関係資料〕

岡山友愛社設立趣意書●岡山友愛社発起人●一九一七・三

財団法人石井記念愛染園

臨時寄附者芳名録

大正七年十一月茶臼原農場学校職員●一九一八・一二

大正六年度日誌より●一九一七

同情録●一九一七

賛助会員各位への感謝●一九一七

預替

病児

急告●一九一七

五一―朝鮮総督府済生院長ヨリノ質問ニ対スル答書大正八年四月作成●一九一九・四

五二―自大正六年一月至大正八年十二月末岡山本部・茶臼原・大阪週報●一九一七・一～一九一九・五

五三―茶臼原孤児院年報摘録●一九一九

五四―岡山孤児院一覧大正十年一月初●一九二一・一

五五―明治廿七年四月創立以来大正十年十二月末迄収容児年別表●一八九四・四～一九二一・一二

五六―社会的施設ノ写真其他資料蒐集ニ関スル件〈地第一六〇六号〉●宮崎県内務部長●一九二一・一二

五七―宮崎県岡山孤児院分院茶臼原孤児院調書（写）●〔一九二一〕

五八―岡山孤児院一覧大正十一年一月●一九二一・一

五九―茶臼原分院週報●〔一九二五〕・七～九

第3巻 目次

資料番号―資料名●編著者名〔発行所〕●発行年月

六〇―新聞抜萃一●一八九九・三～

六一―明治三十四年二月各新聞切抜本院記事貼付帳●一九〇〇・六～

六二―岡山孤児院画ばなし山陽新報所載●一九〇一・二

六三―明治卅四年四月一日改正本院ニ関スル新聞切抜貼用簿第壱号●新報社●一九〇一・四～

六四―明治卅四年九月一日起岡山孤児院ニ関スル新聞記事集●岡山孤児院新報社●一九〇一・九～

六五―〔岡山孤児院関係新聞切り抜き帳〕●一九〇三・六～

六六―三十九年東北凶作地児童救済●一九〇六・二～

六七―東北児凶作地子女収容●一九〇六・三～

六八―明治卅九年明治四十年新聞切抜●一九〇六・六～

六九―茶臼原ノ孤児明治四拾年一月日州新聞掲載記事●若山蔵六●一九〇七・一

七〇―大正三年石井父上永眠当時ノ新聞切抜●一九一四・一～

七一―大正四年～大正八年新聞切抜●一九一五・四～

七二―石井十次没後ノ孤児院記念協会記事●一九一六・二～

明治二十年八月

孤兒教育會概則

東京都立中央図書館蔵書印

孤兒教育會概則

第一章　名稱

本會ヲ孤兒教育會ト稱ス

第二章　目的

孤兒教育院ヲ便宜ノ地ニ設ケ貧困ノ孤兒六才以上ノモノヲ募リ滿十五才迄之レヲ救濟教養シ國家ノ眞民トナシ天與ノ幸福ヲ受ケシムルニアリ

○孤兒教育院

名稱

孤兒教育院ト稱ス

位置

岡山

教育

普通教育ヲ施コス、

但シ年齢十才以上ノモノハ勉學ノ傍ラ附屬ノ製造所ニ於テ工事ヲ學バシメ滿十五才ニ至レバ退院セシメ各々其ノ自由ニ任カセテ相當ノ職業ニ就カシメ拔群

ノ兒童ハ尚ホ進ンデ高等ノ教育ヲ受ケシム

教師

熱心ノ教育家ヲ聘シ孤兒教育ヲ委任ス

但シ相當ノ報酬ヲナス

入院孤兒ノ數

本院ニ於テ教養スル孤兒ノ數ハ義捐高ノ多寡ニ從フ

○孤兒教育院附屬製造所

本會ニ於テハ附屬ノ製造所ヲ設ケ麥稗或ヒハテーヲン或ヒハマッチ製造等ノ如キ十才以上ノ兒女ニシテ製シウベキ製造ヲナサシメ

第一、十才以上ノ孤兒ニ職工ヲ學バシムルノ便ニ供シ

第二、退院後直チニ目的ノ着カザル者ヲ尚ホ茲ニ働カシメ相當ノ賃錢ヲ定メテヲキ遂ヒニ一家ヲ立ツルノ資本ヲ貯蓄セシム

第三章　方法

凡ク會員ヲ募リソノ赤心ヨリ義捐スル所ロノ金穀等ヲ以テ之レガ費用ニ供ス

第一、會員

本會々員タルモノハ

第一、赤心ヨリ孤兒ノ貧困ヲ憐察シ、イカニモシテ、之レヲ、救濟セントト欲スルノ志アル人ニ限ル

第二、會員若シ貧困ノ孤兒ニ見當ル時ハ直チニ其地ノ救濟委員ニ報知ス可シ

第三、會員ハ各自其ノ分ニ應ジ毎一年間ニ義捐セントト欲スル金穀等ノ高ヲ定メテヲキ毎年何月何月両度カ或ヒハ何月一度カニ本會事務所或ヒハ最寄ノ救濟委員ニ出ダス可シ

但シ其ノ高ヲ定メズ全ク會員ノ隨意ニ任カス少數ノ金員或ヒハ米穀等ヲ義捐スル眞正ノ會員多數ノ協力ヲ望ムモノナレバ也

○入會手續

本會ヲ贊成シ入會セントト欲スル人ハ本會事務所或ヒハ各所救濟委員ニ其ノ旨ヲ告ゲ加盟証書ヲ受取リ其屬籍住所姓名並ビニ其ノ毎一年間ニ義捐セントト欲スル金穀等ノ高ヲ記入シ之レヲ本會事務所或ヒハ其地ノ救濟委員ヘ差出シ同時ニ本會々員之証

既刊図書〈復刻版〉のご案内

子どもの人権問題資料集成

《全一〇巻》〔編集復刻版〕

「児童の世紀」だったはずの二〇世紀――。近代日本の子どもたちは、戦争と貧困の時代をどのように生き抜き、また社会はその保護・育成につとめたのか。子どもの人権問題に関する多くの資料を蒐集し、「子どもの保護教育」「少年保護」「子ども虐待」「子どもと健康／障害」「子どもと貧困／労働」の六分野に分け、収載した。「子どもの人権」の見地から近代日本社会を照射する資料集成。

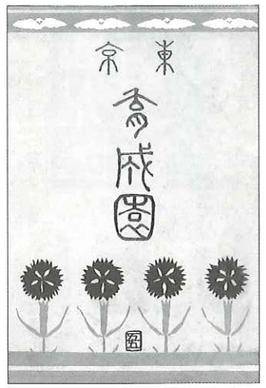
A4判／上製
総三、五〇〇ページ
●揃定価＝本体二五〇、〇〇〇円＋税
●編・解説＝室田保夫、二井仁美、倉持史朗、蜂谷俊隆
●推薦＝相澤仁、宇都榮子、小倉襄二、森田明、山崎由可里

東京孤児院月報

《全三巻・別冊一・付録一》

一八九九年～一九二二年

身寄りのない子どもたちをただ「収容」するのではなく、ひとりひとりの子どもの人権を中軸に据え、「家庭」として子どもたちを受け入れ育てた東京孤児院＝東京育成園の機関誌。児童福祉・社会思想史研究に必須の資料！



A4判・B5判・四六判／上製
一、八七六ページ
●揃定価＝本体八〇、〇〇〇円＋税
●解説＝丹野喜久子
●推薦＝吉田久一、仲村優一

東京市養育院月報

《全三〇巻・別冊一》

一九〇一年～一九三八年

近代化のひずみによって首都東京で窮乏にあえぐ路上生活者や知的・身体・精神障害者、身寄りのない高齢者や子ども、ハンセン病患者らを引き受けてきた東京市養育院。その機関誌として、近代日本の最底辺層の人々の生きざまを証言する重要資料！　社会福祉史・社会政策史研究に必須の資料を復刻。

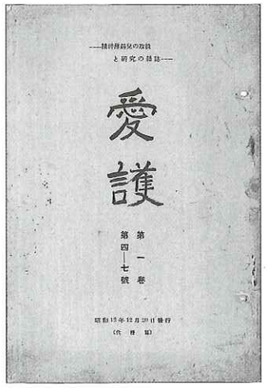
B5判・A5判／上製
総約一四、〇〇〇ページ
《明治期》全六巻
●揃定価＝本体一二〇、〇〇〇円＋税
《大正期》全二巻
●揃定価＝本体一八〇、〇〇〇円＋税
《昭和期》全二巻＋別冊
●揃定価＝本体一八〇、〇〇〇円＋税
●解説＝清水寛、室田保夫

愛護

《全四巻・別冊一》

一九三六年～一九六三年

一九三四年、国や自治体の支援を期待できない困難な時代に知的障害児施設を創設・活動していた、滝乃川学園・白川学園・藤倉学園などの先駆者が集まり結成した日本精神薄弱児愛護協会（現・日本知的障害者福祉協会）の機関誌を復刻。近現代の知的障害者福祉の歩みを証言する貴重資料！



B5判・A5判／上製
一、七〇〇ページ
●揃定価＝本体六〇、〇〇〇円＋税
●解説＝蒲生俊宏
●推薦＝津曲裕次、北沢清司

岡山孤児院関係資料集成

編集復刻版 全3巻

●刊行によせて――児嶋草次郎（石井記念友愛社理事長）…第1巻巻頭に収録

●解説――細井勇・菊池義昭…第1巻巻頭に収録

●定価――75、000円＋税

ISBN978-4-8350-5909-9

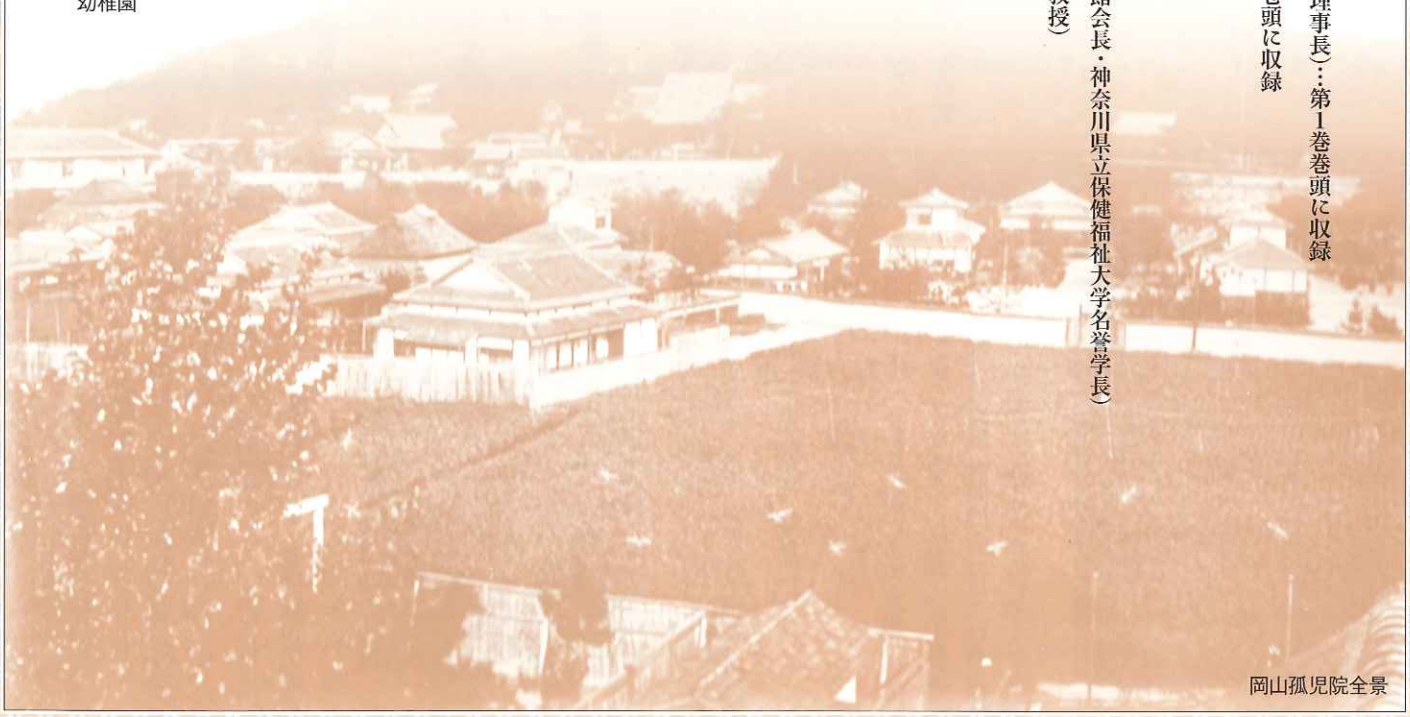
●刊行――2009年11月

●推薦――阿部志郎（横須賀基督教社会館会長・神奈川県立保健福祉大学名誉学長）
池田敬正（京都府立大学名誉教授）

音楽隊（1899年頃）。当初は伝道の手段であったが、植民地も含む全国各地に招かれ、募金活動の一環ともなった。

石井十次
（1865～1914）

幼稚園



岡山孤児院全景

不二出版
〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替00160-2-94084

●表示価格はすべて税別。

2009/12〔改〕